

Q8 品濃町（村）は、昭和14年に横浜市に合併されるまでの655年間は相模国鎌倉郡に属していたとのこと。そのことはどのような意味を持つのでしょうか？

A

- ・品濃町は Q4 で説明したように大変古い歴史を有しており、その殆どは相模国鎌倉郡に属していた歴史であり、かつ、山之内庄に属していた歴史です。山之内庄は柏尾川の流域を包む地域であり、幕府のある鎌倉と一帯となった地域として軍事上大変重要な役割を果たしました。
- ・品濃村はその山之内庄にあって、武蔵国と国境を接する場所に位置していました。そのことが関係しているかどうかは分かりませんが、先述したように、品濃村は鎌倉時代の弘安7（1284）年に北条氏の分流である名越氏の菩提寺・長福寺の寺領となり、建武元（1334）年には足利直義によって建長寺の正統院領になっています。
- ・建長寺正統院は、1年後の建武2(1335)年に後醍醐天皇の勅命を受けた夢窓疎石によって円覚寺に移され、その結果、品濃村は円覚寺正統院領になりました。正統院には「舍利殿」があり、背後の開山堂の裏山には無学祖元の墓所があります。
- ・品濃町にある北天院は円覚寺の末寺ですが、先述したように、弘安2（1279）年に円覚寺の祖である無学祖元が中国から渡来した際、鎌倉に入る前に草鞋を脱いだ草庵として、殊の外、円覚寺との縁が深い寺院です。末寺でありながら本山の開山を迎えて開山となした寺は北天院のみとのことですが、このことは品濃村が円覚寺正統院領であったことが大きく影響しているとのことです。
- ・また、白旗神社は康元元（1256）年という鎌倉時代のかなり早い時期の創建であり、藤沢の白旗神社が義経を祀ったのは宝治3（1249）年のことですから、その僅か7年後に当たります。一方、平戸の白旗神社は乾元元（1302）年の勧請といます。
- ・このように、鎌倉の有力な寺院の寺領となり、また、住民にとって心のよりどころとなる社寺がいずれも鎌倉にゆかりが深いことを考えると、品濃町は単に軍事上だけでなく、文化的にも宗教的にも鎌倉と一帯となった一つの圏域に属していると考えられます。
- ・境木地蔵堂に祀られているお地蔵さんは、鎌倉の腰越に漂着したとき漁師に向かって江戸に連れて行くように頼み、牛車に乗せられて境木まで来たとき動かなくなってしまったといいます。放置することにした漁師からお地蔵さんを託され、村人が建てたのが境木地蔵堂ですが、これは何を暗示しているのでしょうか。私が思うに、隠れた知恵者があり、お地蔵さんは元々江戸に運んでいくつもりはなく、あくまでも鎌倉のお地蔵さんとして相模国と武蔵国の国境である境木に留めるつもりだったのではないかと。そして、武蔵国以東から辿り着いた旅人に「ここから先はいよいよ鎌倉（文化圏・宗教圏）ですぞ」と意識させる役割をお地蔵さんに担わせたのではないかと。
- ・その意味で品濃町も、武蔵国以東から来た旅人が最初に足を踏み入れる「鎌倉文化圏・宗教圏」の入口にあり、だからこそ、品濃町には円覚寺ゆかりの末寺があり、また、源氏ゆかりの白旗神社が鎮座しているのではないかと考えられます。